

献 辞

相見志郎先生は、本年6月1日にめでたく古稀を迎えられました。

先生は、わが国における重商主義の研究における貴重な業績である『イギリス重商主義経済理論序説』に示されているように、主として重商主義の多くの理論家についての体系的な研究に大きな足跡を残されました。また、この十数年はアダム・スミスについて、先生の独特な観点から、いくつかの重要な考察と指摘を行なわれました。

さらに、経済学史学会においては、幹事として重要な役割を果たされました。

先生の功績は、もとよりこのような研究面にとどまるものではありません。同志社に在職中の40年間には、学部長、大学評議員、法人評議員として貢献されました。

特に、学園紛争が始まろうとしていた時期に学部長になられ、寮問題では大変なご苦勞をされました。

同志社大学経済学会は、先生の長年にわたる研究と教育に対するご貢献に感謝し、『経済学論叢』の第39巻 第1号を記念号として編集することになりました。先生のご指導を受けられた方々の労作を、古稀記念論文集として一冊にまとめ、先生に捧げることが出来ますことは、私達一同のよろこびであります。

どうか先生が、いっそうご健康に恵まれ、この上とも研究と教育にご貢献下さいますことをお祈りいたします。

1987年8月

同志社大学経済学部長 森 一 夫